



善永寺報

報恩講版

みのりの秋も深まり報恩講の季節となりました。報恩講は浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。

宗祖親鸞聖人が今から七百五十年前、弘長二（一二六二）年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。京都の本願寺では一月九日から十六日まで、宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。浄土真宗の各寺院や門徒は、一月は本山にお参りするのですが、それ以前に「お取り越し」といって、それぞれに報恩講をおつとめ致します。善永寺では下記により「報恩講」をお勤めいたします。御参拝ください。善永寺の報恩講では他の法要と違った御荘厳（お飾り）や、行事があります。

で、当時の歌謡の曲といわれています。また初夜勤行に引き続き「御伝鈔」の拝読をいたします。またいつもと違い仮本堂前には幔幕を張り、四幅の「親鸞聖人御絵伝」を奉懸します。二三日には法要前に「おとき（齋）」の接待をします。これは古くから門徒が共に同じお膳を囲み、信心を語り合う場として、各地で取り入れられていることです。是非法要前ですが、おときを召し上がりながら近くの方と語り合っていただきたいと思えます。

報恩講法要

- 報恩講法要 太子堂（仮本堂）にて
日時 平成二十九年十一月二三日（木）
勤労感謝の日
- 午前十一時より おとき（軽食）
正午 より 報恩講法要
奉讃大師作法
御俗姓拝読
- ひきつづき法話
萬行寺住職 本多静芳師
- 十九日（日）午後五時
スカウト報恩講
- 二十一日（火）午前十時
幼稚園児報恩講
- 二十二日（水）午後五時
初夜勤行
（初夜礼讃）御伝鈔上巻拝読
- 二十一日より三日間、午前七時の晨朝法要は正信偈行譜です。
- おときは太子堂一・二階を会場とし、椅子席です。
- 受付は太子堂入り口で行います。



初夜勤行 午後五時より仮本堂にて初夜礼讃をおつとめします。このお経は親鸞聖人の頃から伝えられた節

忘れなく。



善永寺本堂新築上棟式

十一月六日晴天の中、善永寺本堂の上棟式を行いました。建築関係者三十名善永寺側総代世話人並びに門徒の皆さん三十二名が出席し、古式にのっとり進められました。まず本堂内で法要が営まれました。本堂内はちょうど柱が立ち、床はコンクリートむき出しの状態でした。中央に六字の名号を掛け、棟木や上棟式で使う道具を置きます。またお餅を重ね供物とし、お酒もお飾りしました。法要中全員の焼香があり、

その後、工匠式を行いました、まず諸役の任命があり、曳き綱の儀、槌打ちの儀、散餅散銭の儀と続きます。曳き綱からは光輪幼稚園の年中組のお子さんも参加していただきました。みんなでエイエイのかけ声で綱を引きます。その後屋根に上がった職人さんが、かきやで屋根をたたきます。次は真ん中の台からお餅やお菓子を投げる散餅の儀です。袋に入った小さな紅白餅やお菓子を投げます。子どもも大人も楽しいひとときでした。その後太子堂ホールで清宴。子ども以外は参加してひと



曳き綱の儀



散餅散銭の儀

ときを過ぎました。建築の完成は来年の四月末の予定です。その後本堂内の仏具や内装の工事と搬入があり、本堂として使用できるのは来年の十一月を予定しています。また落成慶讃法要を二〇一九年秋にと考えています。まだ工事は続きます、もうちよつとです。皆様よろしくお願いいたします。

築地本願寺の報恩講

築地本願寺では十一月十一日から十六日まで報恩講法要がお勤めされます。こちらへも是非お参り下さい。

ご本山の報恩講

ご正忌報恩講と呼ばれ、一月九日から十六日まで京都本願寺(西本願寺)でおつとめになります。

○初御座・門信徒新年会

日時 平成三十年一月十四日(日)
午後一時(詳細は後報)

「善永寺報」報恩講版
発行 浄土真宗本願寺派善永寺
住職 高輪真澄
東京都大田区萩中一十一-二十四
〒144-0047
電話 〇三-三七三九-五六四一
FAX 〇三-三七三九-五六四〇
<http://www.zeneiji.jp/>
E-Mail: takanawa@zeneiji.jp